

令和2年度 学校関係者評価書(様式)

鈴鹿市立牧田小学校		NO.	
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	<p>1 授業力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数科の授業研究の実施 →児童アンケートによる検証 <p>2 基礎基本の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の充実 →宿題や自主学習の徹底、児童アンケートによる検証 習熟度別の授業実施による学習への積極性 →単元別のテスト等で変容を把握 <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート:「学校の勉強がよくわかる」→「はい」の回答が増加(42%→46%) 児童アンケート:「学習したことをきちんとノートにまとめている」→「はい」の回答が増加(59%→65%) 児童アンケート:「家で宿題などの勉強を毎日している」→「はい」の回答が増加(63%→67%) 児童アンケート:「授業中、自分の考えを伝えようとしている」→「はい」の回答に増加傾向なく、改善が不十分(36%→35%→35%) みえスタディの県平均との差 5年算数: -5.9 4年算数: +1.9 四則計算や漢字の書き取りなど基礎基本に課題が残る 	<ul style="list-style-type: none"> 校長のリーダーシップの下、粘り強く取り組ませることが、学習意欲や学力向上につながる。 授業で基本事項を徹底指導し宿題で問題数にあたらせ、再度授業で確認していくことが大切である。 ノート指導、家庭学習の充実などで改善傾向が見られる。授業改善とともに、これらの事に継続的に取り組む事で、授業中、自分の考えを伝えようとする子が育成される。 児童アンケート項目によっては、一朝一夕に効果を上げることが難しいと感じるものもある。肯定的な回答が70%前後でよしと考える。 基礎学力が不十分のまま、中学校に進んでいる現状がある。基礎基本の定着を徹底すべき 	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査の結果を踏まえ、強み・弱みを分析し取り組む。 児童が説明する機会や場面を設定し、その説明に対し意見を交わす授業スタイルの定着を図る。その際、ICT機器を効果的に活用する。 家庭学習を充実させるため、各学年に応じた学習方法を示す”学習の手引き”を年度当初に配布する。
生徒指導	<p>1 基本的な生活習慣の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域と協働した「すいみんの日」の取組推進(毎月第2水曜と年間3回の強化週間設定) →児童アンケート及び児童理解会議において検証 児童会と生活委員を中心に、「あ・す・な・る・☆運動」(挨拶・スリッパをそろえる・なかまを大切に守る)を展開 →職員会議及び児童アンケート結果で検証 <p>2 不登校児童の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> SLSや特支COを中心に、1限目終了までに欠席理由の確認や登校促す家庭訪問を実施 →30日以上欠席児童数の前年度減を目標値に設定 <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート:「早寝早起きをしている」→肯定的な回答が減少(77%→82%→75%) 児童アンケート:「学校や社会のきまりを守っている」→肯定的な回答が高い数値で推移(92%→94%→93%)しているが、教員が児童を注意する場面が減っているという実感に欠ける 地域から下校時の交通マナー違反や公園での遊び方で迷惑行為の苦情が多かった 30日以上欠席児童数、前年度と比較し、4名増(11名→15名) 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート結果において、生活指導面の項目で肯定的な回答が高く(75%以上)なっており、評価できる。心身の健康のためにも、引き続き「すいみんの日」の取組などを堅実に継続実施していくことを望む。 遅刻や不登校の対応では、保護者が登校指導を通して、実態を把握し、学校・保護者・民生委員が連携し、早期対応していくことが必要である。 挨拶や早寝早起きのアンケート結果で、児童の評価に比べ、保護者の評価が高くなっている項目がある。原因追及が必要であろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着に向けた取組強化の一環として、PTAと協働し進める「教育を語る会」で協議し、その結果を全保護者へ啓発する。コロナ禍で参集が不可の場合は、役員の意見を集約し伝える。
人権教育	<p>1 地域と連携した多文化共生教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年の学習テーマに沿った成果発表として「牧田万博」を開催 →保護者・児童アンケート結果で検証 <p>2 仲間づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間2回の人権レポート研修を実施 →全職員で課題の把握と保護者・児童アンケート結果で検証 <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート:「学校で文化のちがう外国の人たちと分かり合う大切さを勉強している」→肯定的な回答が高い数値で推移(86%→92%→85%)しているが、今年度は牧田万博で大きな発表機会がなかったため、やや数値が減少した 児童アンケート:「自分や友だちを大切にし、いじめや差別をなくそうとしている」→肯定的な回答を維持(96%→94%→91%)している。重大ないじめ事案等は発生しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート結果において、人権教育面の項目で肯定的な回答が高く(85%以上)なっており、評価できる。 牧田地区の特色である前川定五郎さんの生き方学習や多文化共生教育の推進などを引き続き行うことで、子どもたちの人権尊重の意識が高まっていくと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の特徴である前川定五郎さんの生き方学習や多文化共生教育を引き続き、人権学習の核に据えて、仲間づくりを進める。 「自分を大切に、他人も大切にする」指導を継続する。 コロナ禍にあっても、リモートの活用等、感染対策を行いながら、貴重な学習機会である「牧田万博」開催を進めたい。
働き方改革	<p>1 時間外労働の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別な事情がない限り、月45時間・年間360時間を超えない勤務に向けた個々での退勤時刻の設定 ”探す””迷う””悩む”の解消のため、連携・相談を全教職員で意識化 →勤務状況報告書で把握 <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総勤務時間削減の意識は浸透し、勤務状況報告からも規定の時間を超える報告はない。しかし、間に合わない仕事の処理などで休日に出勤する事例がみられ、実態と報告とが完全には整合していない。 長欠児童の多さ、虐待事案の危惧など教育課題が少なくない中、大きな問題に発展せずに学校運営ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での学校運営は授業時間の確保などで苦慮されたと思う、大きな問題なく進められていることに、敬意を表する。 教職員間の連携・相談を積み重ねていくことで、より良い職場環境が形成され、職員の自己実現の達成とともに、児童の成長にも好影響がもたらされる。 自主的な休日出勤は、認めることも大切と感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会や自然教室等の行事について、内容をスリム化し、日常の教育活動の負担にならないよう精選し進める。 この機会にこそ、職員一人ひとりの意識改革が必要である。
その他	<p><委員意見></p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で変更となった様々な活動についての検証が必要。(運動会の縮小、牧田万博の変更、学習ボランティアの活動休止等) 運営協議会として、学校にメリットがあり、負担がかからない関わり方を模索していきたい。 登下校でのルール・マナー違反について、学校と保護者が連携し、改善を図る必要がある。 		